

**製品名: XPG ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab19961**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	130kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ERCC5
別名	ERCC5; ERCM2; XPG; XPGC; DNA repair protein complementing XP-G cells; DNA excision repair protein ERCC-5; Xeroderma pigmentosum group G-complementing protein
遺伝子 ID	2073.0
SwissProt ID	P28715
免疫原	抗血清はヒト ERCC5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 131-180

**背景**

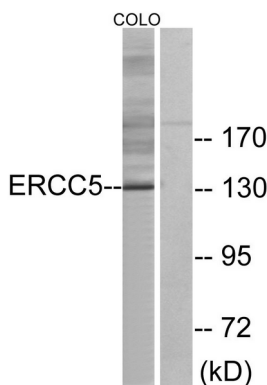
この遺伝子は、紫外線誘導性損傷後の DNA 除去修復において 3'切断を行う一本鎖特異的 DNA エンドヌクレアーゼをコードする。こ

のタンパク質は、RNA ポリメラーゼ II 転写や転写共役 DNA 修復など、他の細胞プロセスにも機能する可能性がある。この遺伝子の変異は、色素性乾皮症相補群 G (XP-G) を引き起こす。これは色素性乾皮症 VII (XP7) と呼ばれ、紫外線に対する過敏症と紫外線曝露後の皮膚がん発症感受性の上昇を特徴とする皮膚疾患である。一部の患者は、重度の成長障害、知的障害、悪液質を特徴とするコケイン症候群も発症する。この遺伝子と隣接する上流の BIVM (塩基性免疫グロブリン様可変モチーフ含有) 遺伝子との間には、リードスルー転写が存在する。[RefSeq 提供、2011 年 2 月]、補因子: サブユニットあたり 2 個のマグネシウムイオンに結合する。これらはおそらく酵素によって触媒される反応に関与している。基質結合後にさらに 3 つ目のマグネシウムイオンを結合する可能性がある。、疾患: ERCC5 の欠陥は、色素性乾皮症相補群 G (XP-G) [MIM:278780] の原因であり、色素性乾皮症 VII (XP7) としても知られる。色素性乾皮症は、常染色体劣性遺伝性の色素性皮膚疾患であり、皮膚の日光過敏症、日光曝露部位の癌発生率の高さ、および場合によっては神経学的異常を特徴とする。一部の XP-G 患者は、小人症、感音性難聴、小頭症、精神遅滞、色素性網膜症、運動失調、神経伝導速度低下など、コケイン症候群の特徴を示す。、機能: DNA 除去修復に関与する一本鎖構造特異的 DNA エンドヌクレアーゼ。DNA ヌクレオチド除去修復 (NER) において 3'切断を行う。DNA から酸化ピリミジンを除去する DNA グリコシラーゼの補因子として作用する。また、この種の損傷の転写共役修復、RNA ポリメラーゼ II による転写、そしておそらく他のプロセスにも関与している可能性がある。、類似性: XPG/RAD2 エンドヌクレアーゼファミリーに属する。XPG サブファミリー。、サブユニット: PCNA と相互作用する。、

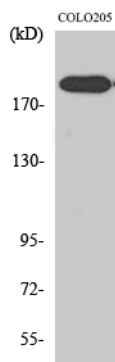
## 研究分野

ヌクレオチド除去修復;

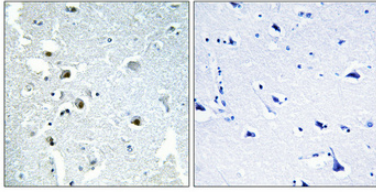
## 画像データ



ERCC5 抗体を用いた COLO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



XPG ポリクローナル抗体 (1: 2000 希釈) を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は 1: 20000 希釈。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。